

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

前書き

著者	津守 陽
雑誌名	神戸市外国語大学外国学研究
号	93
ページ	1-2
発行年	2019-12-20
URL	http://id.nii.ac.jp/1085/00002320/

前書き

本論文集は、2016～18 年度 Research Project-B 助成金を受けて行われた共同研究「20 世紀東アジア：越境する文学形式と思考の流動」の成果をまとめたものである。本研究班は日本（語）・中国（語）・韓国（語）の文学をフィールドとする若手によるもので、年間 1～2 回のペースで各メンバーが順に主催者となってシリーズ型のワークショップを開き、研究交流を行ってきた。

全体を貫くテーマとしての「文学形式」は、日中韓の文学研究において決して「熟した」用語や概念ではなく、研究班のなかでも耳慣れなさを残す一種の造語としてつきあってきたところがある。およそ「文学をめぐる形式」を包括することを目したこの用語には、具体的には従来「文体」や「ジャンル」と称されてきた要素が含まれる。本研究班がその用語のざらついた違和感を通して意識しようとしてきたのは、文学をめぐる「形式」の意義が、もしかしたらこれまで作家の個性に属する掬えどころのない一要素や、あるいは逆に揺るがしのない既定の枠組とみなされることで、見過ごされてきたのかもしれない、という状況である。「形式」がもし「形式」以上の意味を持つとしたら、それは思想や概念といった「内容」と、どのような関係を切り結んでいるのだろうか。

こうした視野をベースに、各ワークショップでは主催者が自身の問題意識から関連するテーマへと枠を広げ、外部の研究者も招いて研究報告が行われた。結果として、ゆるやかに連携するテーマのもとに、日本・中国・香港において全五回のワークショップ開催を実現することができた。ここでそれぞれの回の情報を記録しておく。

第一回 北京会議（主催：北京大学 張麗華）2016 年 6 月 24、25 日

“跨文化语境中的文学形式” 工作坊

（文化越境というコンテクストにおける文学形式）

第二回 大阪会議（主催：神戸市外国語大学 津守陽）2016 年 12 月 26 日

国際学術ワークショップ「20 世紀東アジア：越境する文学形式と思考の流動」（二十世紀東亞：跨境的文學形式與思想流動）

第三回 香港会議（主催：香港教育大学 李婉薇）2017 年 6 月 23、24 日

「越界の言與文：二十世紀東亞的文學與思想」 工作坊

(境界を越える言と文：20 世紀東アジアの文学と思想)

第四回 武漢会議（主催：武漢大学 裴亮）2017 年 9 月 8、9 日

“漂泊与越境：东亚视域中的作家流徙与文学创生” 国际学术工作坊

(漂泊と越境：東アジア視野における作家の流動と文学の創生)

第五回 沖縄会議（主催：琉球大学 呉世宗）2019 年 3 月 29 日

国際学術ワークショップ「20 世紀東アジアにおける帝国と文学」

会議の規模も、数十名の発表者を擁した大規模なものから、数名の発表者でじっくり話し合う小規模なものまで、主催者の裁量で自由に行った。とはいえ各回共通して大事にしてきたのは、同一メンバーを中心とする継続的でオープンな研究交流を通して、研究アイデア段階からの忌憚なき意見交換を行うというスタイルであった。

当初、大規模学会では難しい緊密な交流を手弁当で築きたい、という願いから生まれた研究班活動であったが、幸い各開催地では協力いただいた著名な研究者の方々からも温かい応援と期待の声を賜り、今後へとつなげていく手応えを各自が得ているように感じる。今後はややワークショップ開催のペースを落としながら、草の根的な国際共同研究の基盤を築いていく展望について、メンバー同士が再度語り始めたところである。紙幅の都合上、ここで本論文集所収の各論考について詳しく述べる余裕はないが、3 年間にわたって折に触れ聞き込んできた各自の研究課題と関心が、互いに刺激を受けて時に予想外の響きあいを見せる様は興味深い。研究班にとって最初の公刊された成果物となる本論文集が、今後さらに実のある研究交流へとつながる一歩となることを、心から期待するものである。

なお各論考のうち 4 本は、中国語で書き下ろされたのち日本語訳して掲載している。訳注はなるべく簡便に〈 〉によって本文中に挿入したが、やや複雑なものは論文末に注を付している。多岐にわたる論考を丁寧に訳してくださった翻訳者の方々に、厚く御礼を申し上げたい。

2019 年 7 月 4 日

「20 世紀東アジア：越境する文学形式と思考の流動」研究班代表

津守 陽